

平素より当院地域医療連携にご支援を賜りまして誠にありがとうございます。  
当院消化器内科は、消化管疾患・胆膵疾患・肝疾患の診断治療を、迅速かつ丁寧に行うことで、地域医療に貢献できるよう努めております。  
今回は、現在全国的に増加傾向にある炎症性腸疾患 (IBD)についてお知らせいたします。  
今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。  
(2020年4月消化器内科胃腸科部長 東 玲治)

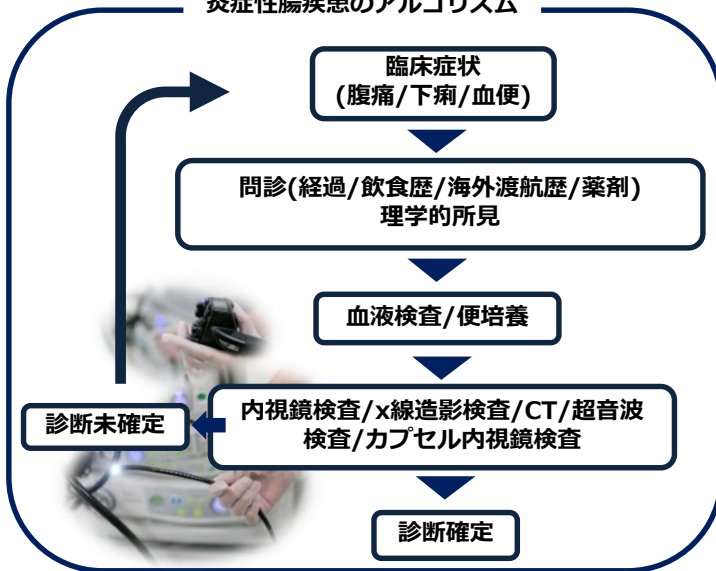


## 炎症性腸疾患(特定疾患認定の難治性疾患)

潰瘍性大腸炎

クローン病

炎症性腸疾患のアルゴリズム



炎症性腸疾患には主に潰瘍性大腸炎とクローン病の2疾患があり、両疾患とも特定疾患に認定されている難治性疾患です。比較的若い方に発症しやすい傾向にありますが、近年潰瘍性大腸炎では高齢で発症する方も散見されます。日本の患者数は増加傾向にあり、潰瘍性大腸炎は18万人、クローン病は4万人を超えています。腹痛、下痢、血便等が主な症状で、内視鏡検査を中心に様々なモダリティを駆使して診断を行い、罹患部位、重症度と生活背景等を考慮して治療戦略や治療目標をたてていきます。

従来

5ASA製剤  
手術  
ステロイド

現在

生物学的製剤  
JAK阻害剤  
免疫調整剤  
血球除去療法

以前は症状がなくなること(臨床的寛解)が治療目標とされてきましたが、現在は内視鏡的に腸管に炎症がないこと(粘膜治癒)が治療目標のひとつとしてあげられるようになってきており、治療目標も変化してきております。

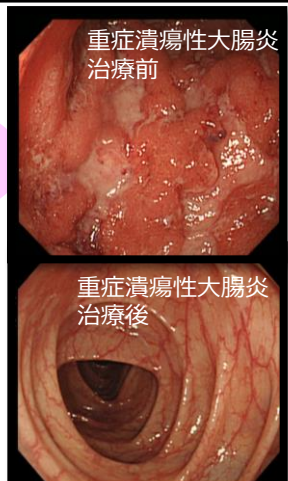
症状(腹痛/下痢/血便)の持続

諸検査を行ったが診断にお困り

治療に難渋している

胃カメラ(EGD)  
大腸ファイバー(CS)  
同日実施できます!

当院、消化器内科へ  
ご紹介ください!



ご予約・お問い合わせ先/一宮西病院 地域連携室

TEL : 0586-48-0022

(平日/AM8:30~PM 7:00 土曜/AM8:30~PM12:00 日・祝・年末年始は休み)